

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月31日

事業所名 ケアステキっず精華

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	相談室、休養室も設けており十分なスペースがある	
	2	職員の配置数は適切である	82%	18%	適切である	日により出勤人数にばらつきがみられる 少ない日でもサービスにムラが出ない様にしていくための対策が必要
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	適切である	スロープ、エレベーターを設置している
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	55%	45%		必要時に応じて臨時カンファレンスを開きチェック、見直しをしているが全職員が実施出来るようにしていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	73%	27%	送迎時や電話等で家族様と情報交換を実施している	全ての家族様とは出来ていないため今後の課題とする
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HP上で公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	27%	73%	出来ていない	十分には出来ていないため今後の課題とする
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	91%	9%	研修を実施している	定期的に開催出来るようにしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	91%	9%	カンファレンスに参加している	コロナ禍というのもあり出来ていないが、今後は積極的に参加していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	記録ソフトを使用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	82%	18%	個々のプログラムを考えている	決まったプログラムはなく日々決めているため単発的な物が多く、継続して出来るプログラムも検討していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	82%	18%	日々プログラムを立てている	プログラムが固定化されないよう工夫をしていく必要がある
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	91%	9%	出来ている	課題等は全職員が周知出来るよう情報共有を必ず実施していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	特性に合わせて立案をしている	同上
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		その日の業務担当表に記載し都度確認が出来る様になっている また日タリーダーを決め各自が遂行出来ているかの確認もしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		当日、翌日の業務担当表に記載し全職員が周知出来るようにしている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々記録をしている	記録ツールを使用している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	評価月毎に実施している	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	行っている	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	参加出来ている	参加職員は支援員と看護師とふさわしい者が参加している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	82%	18%	送迎時必ず情報収集をしている	送迎時、必要時は電話連絡をしているが十分とは言えないため今後の課題とする
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	指示書を提出してもらっている	家族様や相談員を通して主治医との連携を図っており、緊急時の対応はファイルにまとめている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	カンファレンスや相談員を通して情報収集をしている	カンファレンスに参加されない場合もあるため、その際はこちらから積極的に収集出来るにしている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	カンファレンスや書面で提供している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9%	91%		現状出来ておらず今後検討していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9%	91%		現状出来ておらず今後検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	91%	9%	参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	82%	18%	送迎時や電話等で対応している	得た情報は全職員が周知出来るよう必ず情報共有をしている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9%	91%		現状出来ておらず今後検討していく
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明をしている	問い合わせ等あれば適宜説明をしている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	82%	18%	送迎時や電話等で対応している	送迎時に相談を受けた場合はその場では返答せず持ち帰り職員間で話し合いをし返答している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		現状出来ておらず今後検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情時には速やかに対応している	苦情に繋がらない様、家族様とも意思疎通を図り情報収集、共有を今後も継続していく。苦情時はカンファレンスを行い速やかに対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	91%	9%	HP上で公開している	HP、インスタグラムで公開しているが定期的に公開出来ていないため定期的に出来るようにしていく
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時に十分に説明をしている	一定期間過ぎた利用者様には再度確認を見直している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	91%	9%	家族様より情報提供してもらっている	個々の対応について不明な場合は家族様より情報提供をしてもらい、またその情報は全職員が周知出来るようにしている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9%	91%	図れていない	現状出来ておらず今後検討していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	73%	27%	マニュアル作成をしている	定期的を実施出来る様にしていく 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	55%	45%	マニュアル作成をしている	定期的を実施出来る様にしていく 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	マニュアル作成をしている	毎月開催しているミーティングで確認をしている 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	契約時に説明をしている	現状拘束は行っていないが今後必要性が生じた場合は保護者、主治医等も交えて説明、了解を得ていくがなるべく行わずにすむ方法を検討していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	契約時には必ず確認し表を作成しすぐに確認出来る様にしていく	一覧表を作成、貼付し事故に繋がらない様徹底している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ファイルを作成し共有している	ヒヤリハットは事故防止につながることを説明しすんで作成するようにしている

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月31日

事業所名 ケアステキっず精華

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	相談室、休養室を設けている	
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	スタッフ間で情報を共有しながら対応に必要な人数が調整されている	日により(欠員)ばらつきがみられるが、その際対応出来るよう対策が必要
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	適切である	車椅子移動が出来るようスロープ、エレベーターの設備がある
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	63%	38%	定期的にカンファレンスを行い評価・修正を行っている	一部の職員のみしか実施出来ておらず、全職員が実施出来るようにしていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	家族様と情報交換を実施している	今後面談等を計画し家族様の意向を把握していく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	88%	13%	HP上で公開している	公開している旨を周知してもらうようにする
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%		外部評価があった際はその結果を業務に繋げられるよう職員間で共有していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	研修を実施している	定期的に開催出来るようにしていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	カンファレンスに参加している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	記録ソフトを使用している	個々に合わせた状況把握を職員間で行っていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	88%	13%		今後プログラムを立て実施していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	日々プログラムを立てている	プログラムが固定化されないよう工夫をしていく必要がある
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75%	25%	季節に応じたイベント・プログラムを実施している	平日、長期休みと別々の計画を立て、その計画を職員間で共有できるようにしていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	特性に合わせて個別援助を考慮している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	情報共有はツールを使用し出来ている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	情報共有はツールを使用し出来ている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々記録をしている	記録ツールを使用しているため、検証、改善時には見直し出来る
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	88%	13%	評価月毎に実施している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	63%	38%	行っている	今後もガイドラインを確認しサービス提供の方法や修正をしていく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	参加出来ている	参加する職員は情報収集を行い、医療ケア児に対しては看護師が参加している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校迎え時には必ず情報収集をしている	ケース会議等に参加をし連絡調整を行っている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	88%	13%	指示書を提出してもらっている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%	カンファレンスや相談員を通して情報収集をしている	カンファレンスに参加されない場合もあるため、その際はこちらから積極的に収集出来るにしている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	カンファレンスや書面で提供している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	38%	63%		現状出来ておらず今後検討していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75%	25%		現状出来ておらず今後検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%	参加出来ている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や電話等で対応している	今後家族面談を計画していく
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25%	75%		しっかりと実施出来ておらず必要があれば検討し実施していく
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明をしている	問い合わせ等あれば適宜説明をしている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時や電話等で対応している	今後家族面談を計画していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%		今後家族面談を計画していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情時には速やかに対応している	苦情に繋がらない様、家族様とも意思疎通を図り情報収集、共有を今後もしていく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%	SNSも使用している	定期的に発信していく必要がある
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時に十分に説明をしている	一定期間過ぎた利用者様には再度確認をし見直している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	家庭内や他事業所等でのようになっているか情報収集をしている	職員全員が出来るよう情報共有に努めていく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	38%	63%	図れていない	コロナ禍というのもあり出来ていないが、今後必要であれば検討していく
非常時	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	マニュアル作成をしている	定期的実施出来る様にしていく 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	50%	50%	マニュアル作成をしている	定期的実施出来る様にしていく 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	マニュアル作成をしている	ミーティングで確認をしている 新入社員はオリエンテーション時に説明をしている

等の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88%	13%	契約時に説明をしている	送迎に使用しているキャロットが拘束にあたるかもしれないことを説明をしている。またその旨を計画書にあげるようにしていく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	契約時には必ず確認し表を作成しすぐに確認出来る様になっている	必ず職員全員が把握出来るように徹底している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	13%	ファイルを作成し共有している	ヒヤリハットは事故防止につながることを説明しすすんで作成するようになっている